

Y13b 長野県星空継続観察「長野県内の系統的な夜空の明るさ測定」

衣笠健三(国立天文台野辺山), 百瀬雅彦, 宮地美由紀(塩尻星の会), 山本良一(マナスル山荘天文館), 陶山徹(長野市立博物館), 森由貴(東大木曾観測所), 大西浩次(長野高専), ほか長野県星空継続観察ワーキンググループ

2016年11月に開かれた「長野県は宇宙県」ミーティングでの「松本宣言」に賛同する長野県下の天文関連施設・団体等で形成された任意団体「長野県は宇宙県」連絡協議会は、全体ミーティングなどとともに、スタンプラリーなどを実施し、天文関連施設や団体、さらには、行政や観光業などの全県レベルの連携を進めている。

一方で、観測環境の把握や維持、および地域振興などを目的として、長野県内の夜空の明るさ測定を系統的に実施するワーキンググループを立ち上げた。これまでの長野県内の夜空の明るさ測定は、長野市博物館友の会・しなの星空散歩会きらきらによる長野市内の測定や塩尻星の会による塩尻地域の測定などが継続して実施されてきたが、県内全域を対象とした系統的な活動はこれが初めてとなる。この活動は、環境省が2018年度に再開した全国星空観察にあわせたものであり、長野県の天文関係者などの夜空の明るさ測定に関心のある方々によって、夏の測定期間前の7月7日に、最初のミーティングを開催した。この会議の参加者を主体としてワーキンググループを立ち上げ、夏の測定の協力を広く呼びかけた。その結果、測定期間となる8月2日15日に長野県内にて実施された測定は67地点となり、都道府県レベルの観測数としては全国トップとなった。その後にも、11月23日に第2回ミーティングを開催し、夏の測定でのまとめとともに、冬の測定に向けての対策を議論している。

本発表では、長野県星空継続観察ワーキンググループの紹介とともに、夏と冬の測定状況と今後の活動について報告する予定である。